

第2章 各教科等における学習評価

8 (2) 中学校 保健体育

単元（題材）における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」と指導計画における児童の活動を考慮し、生徒の学びの姿としてより具体化した評価規準を作成する。

ここでは、

第1学年及び第2学年 E 球技

球技：ゴール型（サッカー）

の単元を例として、その評価例を示す。

① 単元（題材）の目標を作成する

学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説や、生徒の実態、前単元（題材）までの学習状況等を踏まえて作成する。

本単元の目標は、学習指導要領「2 内容」を踏まえ、第1学年及び第2学年の目標を全て記述した上でサッカーにおける単元の目標を明示するため、他の単元で指導し評価する部分については、（ ）で示している。

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性（や成り立ち）、技術の名称や行い方、（その運動に関連して高まる体力）（など）を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。
- ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) （球技に積極的に取り組むとともに）、（フェアなプレイを守ろうとすること）、（作戦などについての話し合いに参加しようとする）、（一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする）、仲間の学習を援助しようとする（など）や、健康・安全に気を配ることができるようにする。

＊ 第1学年及び第2学年であれば、学習指導要領解説の例示等で示された2年間の指導事項について、指導機会における実施時期や配当時間等を踏まえ、指導事項をバランスよく配置した指導計画を作成するよう留意する。

② 単元の評価規準を作成する

単元の評価規準を作成するにあたっては、当該学年の「内容のまとめり」におけるすべての評価規準を作成した上で、その中から当該単元の学習に即した評価規準を取り出して「単元の評価規準」とすることができる。本単元であれば、内容のまとめりである「球技」の全ての評価規準をもとに、以下のように「単元の評価規準」を設定した。

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ① 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。	○技能 ① ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ② 得点しやすい空間	① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ② 仲間と協力する場面	① 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ② 健康・安全に留意

<p>② 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>③ ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>	<p>で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>③ 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>している。</p>
---	---	--	--------------

単元の目標の実現には、具体的な指導を充実した上で、単元の評価規準（学習活動に即した評価規準）により評価を行うことが重要である。そのため、学習指導要領解説の記載等から、生徒の学習状況を実現するための具体的な指導内容を明確にする。以下に、本単元における学習活動に即した評価規準の例を示す。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
<p>ゴール型球技は、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを打ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことが楽しい運動であること。</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>ボール操作には、シュートやパス、ボールをキープする技術の名称があること。それらを身に付けるポイントがあること。</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>守備者のいない位置に移動した時にシュートを打つこと。</p> <p>↓</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる。</p> <p>フリーの仲間を見付け、相手の動きに合わせてパスを送り出すこと。</p> <p>↓</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>ボール保持者とゴールが見える位置に移動し、ボールを受ける準備姿勢をとること。</p> <p>↓</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>	<p>成功例、つまずき例などの事例や、シュート、パス、キープのポイントを提示し、仲間の動きと比較し、伝えること。</p> <p>↓</p> <p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>活動時間の確保やグループの人間関係がよくなるといった目的を伝え、用具の準備や後片付け、記録や審判などの分担した役割における自身の活動の仕方を見付けること。</p> <p>↓</p> <p>②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>仲間の意見をしっかりと聞く、自身の意見を述べるなどの話し合いのマナーを提示し、参加の仕方を見付けること。</p> <p>↓</p> <p>③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>仲間の学習を援助することは、自己の能力を高めたり仲間との連帯感を高めて気持ちよく活動したりすることにつながるという目的に適した仲間との関わり方があること。</p> <p>①練習の補助をしたり仲間へ助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>体調の変化などに気を配ること、ボールなどの用具の扱い方や、ゴールの設置状態、練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること、技能の難易度や自己の体力や技能の程度に合った運動をすることが大切であること。</p> <p>↓</p> <p>②健康・安全に留意している。</p>

③ 指導と評価の計画を作成する

単元の目標、内容、評価規準が具体化され、指導場面や評価機会が関連付けられた指導と評価の計画を作成する。その際、目標の実現に向けて、指導したことを評価すること、「努力を要する」状況と判断される生徒への指導の充実が速やかに図ることができるよう、評価の機会を適切に設定することなどに留意する。

以下は、本単元における指導と評価の計画の例である。

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や(成り立ち)、技術の名称や行い方、(その運動に関連して高まる体力)(など)を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。										
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。										
学びに向かう力、人間性等	(球技に積極的に取り組むとともに)、(フェアなプレイを守ろうとすること)、(作戦などについての話し合いに参加しようとする)、(一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする)、仲間の学習を援助しようとする(など)や、健康・安全に気を配ることができるようにする。											
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント	
学習の流れ	0	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動										<ul style="list-style-type: none"> ・三つの資質・能力の内容をバランスよく指導する。 ・動きの獲得を通して、知識の大切さを一層実感できるようにする。 ・汎用性のある知識を精選した上で、知識の学習を基盤とした学習の充実を図る。 ・ゴール前の空間の攻防をめぐる学習に課題を追求しやすいようにプレイヤーの人数、コート広さ用具、プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れる。 ・練習やゲームでは、即時にアドバイスをし合うことができるようにし、学習の振り返りで質を高めていく。 ・仲間への助言や安全に留意する意義などの理解と具体的な取り組み方を結び付けて指導する。
	10	オリエンテーション	ボール操作 シュート パス トラップ	ボール操作の反復練習				課題の確認と解決の練習 ボール空間に操作走りこむ 課題伝達 役割、安全見つける	ゲームの修正	最終リーグ戦Ⅰ	最終リーグ戦Ⅱ	
20			空間に走り込むなどの動き ボールとゴール									
30		ボール慣れゲーム	シュートゲーム ゲーム記録の活用	グリッド突破ゲーム 仲間の即時の助言		簡易ゲームⅠ 人数・コート・ルール等の簡易化						
40												
50		整理運動・学習の振り返り・次時の確認										
評価の機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	総括的評価 学習カード 観察、記録 学習カード、観察 観察、学習カード
	知	①	(②)	(②)		②						
	技			①		②	③					
	思						②	①			③	
単元の評価規準 (学習活動に即した評価規準)	知	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。										
	技	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。										
	思	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。										
	態	①練習の補助をしたり仲間へ助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。										

④ 実際の指導及び評価

単元途中の観点別学習状況の評価は、生徒一人一人の学習状況を明確にし、生徒の学習改善につなげると同時に、教師は指導の成果や課題を明らかにするものである。このことから、観点別学習状況の評価は、単元の終末にまとめて行うものとして捉えるのではなく、指導場面に対して評価の機会を検討し設定することが重要である。

また、生徒の学習状況を的確に把握するため、日々の授業での一人一人の様子を評価補助簿等に記録し、特に、「努力を要する」状況（C）の生徒に対して手立てを講じることが重要になってくる。例えば、評価した結果を具体的な言葉かけなどにより生徒に返して学習の改善を促したり、教師の指導の手立てを修正したりするなど、評価を指導に生かしていくようにする。併せて、「十分満足できる」状況（A）の生徒の把握にも努め、個別の課題を与えるなどの指導を行う。

以下に、本単元の教師の評価補助簿の例を示す。

<評価補助簿の例>

（学習活動に即した評価規準） 単元の評価規準	知	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。								
	技	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。								
	思	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。								
	態	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。								
観点	知		技			思			態	
	①	②	①	②	③	①	②	③	①	②
時数/10	1/10	5/10	3/10	5/10	6/10	7/10	6/10	9/10	4/10	2/10
月/日	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0
生徒イ			A	A	A	A			A	
生徒ロ			A							A※1 7/10
生徒ハ		C※2 10/10					レ A※3 10/10	A		A
生徒ニ				C※4 7/10						
— 略 —										
生徒ヒ				A			A			

※ 記載のないところは「B」としている。

※2 「C※2 10/10」は、10時間目にCをBに修正したことを示している。

※3 「レ A※3 10/10」は、10時間目にBをAに修正したことを示している。

⑤ 観点ごとに評価を総括する

観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括を行うに当たり、学校内で共通の評価への考え方や総括の方法を確定しておく必要がある。

観点別学習状況の評価の総括であれば、A、B、Cの数を基に総括するか、数値によって表し総括するのか、「知識」と「技能」に分けた「知識・技能」の評価をどのように総括するか、他にも各単元への配当時間数や指導事項に対応した評価規準数を考慮するのか、観点別学習状況の評価を評定へ総括する際に観点ごとの比率を設定するのかなど、総括についての考え方や方法を、各学校において十分検討しておく必要がある。

さらに、シラバスやオリエンテーション等の機会を通して、事前に生徒及び保護者等に対して十分な説明をしておくことが重要となる。

⑥ 保健領域における指導と評価について

保健領域の指導と評価については、

第2学年 (3) 傷害の防止

の単元を例として、その例を以下に示す。

(a) 単元の評価規準

「単元の評価規準」は単元の目標を踏まえるとともに、「知識・技能」や「思考・判断・表現」は学習指導要領解説保健体育編の内容や例示等を基に、「主体的に学習に取り組む態度」は評価の観点の趣旨を参考にして、実際の学習活動をイメージして作成する。評価規準の数は、単元の時間数から精選する。

<第2学年 (3) 傷害の防止 単元の評価規準>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生することについて、言ったり、書き出したりしている。 ②交通事故による傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることについて、言ったり、書き出したりしている。 ③自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じることや、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることについて、言ったり、書き出したりしている。 ④応急手当を迅速かつ適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることや、応急手当の方法について、言ったり、書き出したりするとともに、包帯法や止血法としての直接圧迫法、心肺蘇生法ができる。	①傷害の防止について、それらに関わる事柄や情報などを整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。 ②自然災害などによる傷害の防止について、習得した知識を自他の生活に適用したり、傷害の状態に合わせて悪化を防止する方法を見いだしたりして、傷害を引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択している。 ③傷害の防止について、自他の危険の予測や回避の方法と、それを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。	①傷害の防止について、課題の解決に向けた学習活動に自主的に取り組もうとしている。

(b) 指導と評価の計画

実際の指導に際しては、いつ、どのような評価の資料を基に評価するかを計画して指導と評価を行う。

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故や自然災害などによる傷害について、グループや全体で意見交換をする。 交通事故や自然災害などによる傷害の発生は人的要因、環境要因が関わって発生することをワークシートにまとめ、発表する。 	態 ① 知 ①	○	【観察】〈態－①〉 ※教師の指導改善のための評価 【観察・ワークシート】 〈知－①〉
2	<ul style="list-style-type: none"> 中学生の交通事故の特徴について、教科書等の資料や自分たちの生活を振り返り、調べる。 様々な交通事故事例の共通点から、人的要因と環境要因についてグループで話し合う。 交通事故による傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることについてワークシートにまとめ、発表する。 	知 ②	○	【観察・ワークシート】 〈知－①〉

3	<ul style="list-style-type: none"> ・事故や犯罪が原因となる傷害の例を取り上げて、人的要因と環境要因についてグループで話し合う。 ・交通事故や犯罪が原因となる傷害にはどのような課題があるのか、それらを防ぐためには、どのような対策があるのか、教科書等を参考に考え、発表する。 	思 ①	○	【観察・ワークシート】 〈思－①〉
4	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の大地震の資料を見て、どのような傷害が発生したかを調べたり、これまでの自分たちの生活を振り返ったりする。 ・大地震が起こった時の自分たちの行動を予想する。 ・「災害から命を守るために～防災教育教材～企画：文部科学省」を視聴し、二次災害によって傷害が生じることをワークシートにまとめる。 	思 ② 知 ③	○	【観察・ワークシート】 〈思－②〉 【観察・ワークシート】 〈知－③〉
5	<ul style="list-style-type: none"> ・地震などの自然災害に対して、各家庭で備えていることを出し合い、教科書等のチェックシートで確認する。 ・防災に関する映像資料を視聴し、傷害を防止するために必要なことをグループで検討し、発表する。 ・本時のまとめをワークシートに記入する。 	知 ③	○	【観察・ワークシート】 〈知－③〉
6	<ul style="list-style-type: none"> ・応急手当の意義や手順について、課題の解決に向けて話し合う。 ・応急手当の基本を確認し、患部の保護や固定、止血の行い方を教科書や視聴覚教材で確かめる。 ・包帯法と直接圧迫法の実習を2人組で行い、知識や技能をワークシートにまとめる。 	知 ④		【観察・ワークシート】 〈知－④〉
7	<ul style="list-style-type: none"> ・倒れている人を発見した場合を想定した応急手当の手順について、課題の解決に向けてグループで話し合う。 ・応急手当の順序や心肺蘇生法の行い方を教科書や視聴覚教材で確かめる。 ・心肺蘇生法の実習をグループで行い、知識や技能をワークシートにまとめ、発表する。 	知 ④	○	【観察・ワークシート】 〈知－④〉
8	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習内容を確認する。 ・傷害のケースを示した場面カードを引き、傷害の発生した場面やけがの状況に適した応急手当の方法と手順や、危険を予測し、回避する方法を考え、グループで話し合う。 ・単元を通して学んだことをこれからの生活にどのように生かしていくかをワークシートに記入し、発表する。 	思 ③ 態 ①	○ ○	【観察・ワークシート】 〈思－③〉 【観察】 〈態－①〉 ※

※ 重点…各時間の中で重点的に生徒の学習状況を見取る観点とする。

記録…単元の評価規準に照らして、全員の学習状況を記録に残す観点に○を付した。

※ 重点としていない観点についても、教師の指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況を確認することは重要である。

<参考資料>

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校) (国立教育政策研究所)